

事 業 報 告
決 算 報 告 書

(第43期)

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

株式会社札幌花き地方卸売市場
札幌市白石区流通センター7丁目3番5号

第43期事業報告

〔 自 令和3年4月 1日
至 令和4年3月31日 〕

1 会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及びその成果

令和3年度における新型コロナウイルス感染症による北海道の社会経済活動への制約としては、まん延防止等重点措置が4回、緊急事態宣言が2回、適用・発令され、更に北海道独自の特別対策期間が3回設定されました。これに伴う外出自粛や休業要請などにより、令和2年度に引き続き当市場の取扱高に影響を与えました。

こうした状況のもと、令和3年度の当市場の取扱高（卸売業者三者合計）は、数量で前年度比6.9%の減、金額では2.6%増の73億7千441万円（前年度71億8千747万円）となりました。取扱数量の減にもかかわらず、取扱金額が増となっているのは単価アップによるものです。単価アップの要因としては、新型コロナウイルス感染症による輸入数量の減少などがあげられます。

当期損益につきましては、売上高は1億2千255万円であり、取扱金額の増加により、前期比で282万円の増収となった一方、費用面では大規模修繕工事や防犯カメラの設置などにより一般管理費が売上高を上回ったため、820万円の営業損失（前期営業損失1千310万円）を計上することとなりました。経常損失につきましても607万円（前期経常損失564万円）の損失を計上することとなり、法人税等を差し引いた当期純損失は657万円（前期純損失604万円）となりましたが、予算編成時の当期純損失見込、1千491万円と比較しますと取扱金額の増加や大規模修繕工事の契約差金、その他節減に努めた結果、834万円の収支改善となりました。

(2) 対処すべき課題

- ① 当市場は、昭和56年4月に開場して以降41年が経過します。この間、北海道の花き流通の拠点としての役割を果たしてきたところですが、施設の老朽化が著しく、また、物流の効率化や品質管理の高度化など市場としての整備機能を含めた対応が喫緊の課題となっています。これらを踏まえ、施設修繕は緊急性・必要性が高いものについて行うとともに、今後の市場のあり方や機能強化、更には当市場施設の再整備へ向けての考え方の整理に向けて、関係者の皆様と検討を進めてまいります。

② 当市場が新型コロナウイルス感染症の拡大により花き取引に大きな影響が生じることを防ぎ、取引参加者が安全で安心して利用することができるよう、引き続き感染防止対策を徹底していきます。また、これまでの新型コロナウイルス感染症対策による消費者の行動変容や意識の変化とニーズを的確に捉え、新たな需要創出に向け、行政及び関係事業者の皆様と連携して取組みを行ってまいります。

(3) 資金調達等についての状況

- ① 資金調達 当期中において、新たな借入金、株式の発行はありません。
- ② 設備投資 当期中に行った設備投資は、排水桝設置 33 万、防犯カメラ設置 783 万、電気湯沸かし器 29 万であります。

(4) 直前三事業年度の財産および損益の状況

区 分	平成 30 年度	令和 1 年度	令和 2 年度	令和 3 年度
売 上 高	123,018 千円	120,729 千円	119,733 千円	122,549 千円
当期純利益	6,293 千円	△1,159 千円	△6,038 千円	△6,568 千円
1 株当り当期純利益	15 円 50 銭	△2 円 85 銭	△14 円 87 銭	△16 円 17 銭
総 資 産	699,569 千円	692,659 千円	728,891 千円	776,132 千円

(5) 使用人の状況 (令和 4 年 3 月 3 1 日現在)

従業員数 社員 3 名、非常勤社員 2 名

2 株式に関する事項

- (1) 発行する株式の総数 500,000 株
- (2) 発行済み株式の総数 406,000 株
- (3) 当期末株主数 5 名
- (4) 株 主

株 主 名	持 株 数	株式割合
札幌市	204,000 株	50.25 %
札幌花き園芸(株)	164,600 株	40.54 %
北海道植物(株)	19,000 株	4.68 %
(株)北海道銀行	16,000 株	3.94 %
はまなす花き(株)	2,400 株	0.59 %
計	406,000 株	100.00 %

3 会社役員に関する状況（令和4年3月31日現在）

役 職	氏 名
代表取締役社長	石川 敏也
専務取締役	杉村 亮
取 締 役	高橋 淳
取 締 役	田嶋 久嗣
取 締 役	吉田 信夫
取 締 役	山田 紀雄
取 締 役	木村 明夫
監 査 役	木村 伸人
監 査 役	熊谷 清勝

以上、令和3年度の会社の事業活動の概要をご報告いたしましたが、今後とも、全力をあげて市場運営に取り組んでまいり所存でございますので、関係各位の特段のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和4年6月20日

株式会社札幌花き地方卸売市場
代表取締役社長 石川 敏也

損 益 計 算 書

自令和3年4月1日
至令和4年3月31日

(単位：円)

科 目	金	額
【 売 上 高 】		
施設賃貸収入	100,340,263	
売上高割使用料（卸）	40,559,262	
面積割使用料（卸）	39,465,864	
売上高割使用料（仲卸）	2,089,239	
関連店舗使用料	18,225,898	
精算業務収入	19,383,934	
駐車管理収入	2,825,000	122,549,197
売上総利益金額		122,549,197
【販売費および一般管理費】		130,749,031
営業損失金額		△ 8,199,834
【 営 業 外 収 益 】		
受取利息	1,582	
雑収入	2,128,104	2,129,686
経常損失金額		△ 6,070,148
【 特 別 利 益 】		
貸倒引当金戻入益	0	0
【 特 別 損 失 】		
固定資産除却損	109,204	109,204
税引前当期純損失		△ 6,179,352
法人税、住民税及び事業税		388,255
当期純損失		△ 6,567,607

株主資本等変動計算書

自令和3年4月1日

至令和4年3月31日

(単位：円)

株主資本		
資本金		
	当期首残高及び当期末残高	470,000,000
利益剰余金		
その他利益剰余金		
別途積立金	当期首残高及び当期末残高	40,000,000
繰越利益剰余金	当期首残高	80,952,022
	当期変動額 当期純損失	△ 6,567,607
	当期末残高	74,384,415
利益剰余金合計	当期首残高	120,952,022
	当期変動額	△ 6,567,607
	当期末残高	114,384,415
株主資本合計		
	当期首残高	590,952,022
	当期変動額	△ 6,567,607
	当期末残高	584,384,415

純資産合計		
	当期首残高	590,952,022
	当期変動額	△ 6,567,607
	当期末残高	584,384,415

上記のとおりご報告申し上げます。

株式会社 札幌花き地方卸売市場

代表取締役社長 石川 敏也

個別注記表自令和3年4月1日
至令和4年3月31日

(単位：円)

重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 棚卸資産の棚卸方法及び評価基準

棚卸方法----- 実地棚卸
評価基準----- 最終仕入原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産 定率法によっています。但し、平成10年4月1日以降取得の建物（附属設備を除く。）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

無形固定資産 定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金 債権の貸倒れによる損失に備えるため、法人税法の規定にもとづく法定繰入率による繰入限度額を計上しております。

賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担分を計上しております。

退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、自己都合による退職金の期末要支給額の100%相当額を引当計上しております。

計算書類作成のための重要な事項

①リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転するもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

②消費税等の会計処理

消費税の納付税額の計算方法は、原則課税制度によっています。また、その経理処理は税込方式によっています。

株主資本等変動計算書に関する注記

当該事業年度中の剰余金の配当に関する事項

当期中における配当金の支払いはありません。

当該事業年度後の剰余金の配当に関する事項

配当金の支払いの予定はありません。

発行済み株式の数

前期末株式数（発行済普通株式）	406,000株
当期増加株式数（発行済普通株式）	
当期減少株式数（発行済普通株式）	
当期末株式数（発行済普通株式）	406,000株

一株当たり情報に関する注記

一株当たりの情報

一株当たり純資産額	1,439円37銭
一株当たり当期純損失	-16円17銭

その他の注記

その他

有形固定資産の減価償却累計額	745,197千円
----------------	-----------